



鶴岡市指定天然記念物「カスミ桜」の後継樹が里帰り

りんぼく
－林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組－

ポイント

国指定史跡の松ヶ岡開墾場にあった鶴岡市指定天然記念物「カスミ桜」（山形県鶴岡市）の後継樹が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場(岩手県滝沢市)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

今回は、株式会社松ヶ岡農場から増殖の要請を受けた「カスミ桜」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和4年6月11日（土） 午前9時30分

場所：山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡松ヶ岡28【松ヶ岡本陣（国指定史跡「松ヶ岡開墾場」）】

問い合わせ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 久保田 権（くぼた ごん）

担当者： 収集管理係 織邊 俊爾（おりべ しゅんじ）

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 濱本 光（はまもと ひかる）

Tel：019-688-4518 Fax：019-694-1715

※取材される方は、事前に上記連絡先にご連絡ください。

本資料は、山形県政記者クラブ、岩手県政記者クラブ、鶴岡市記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 320 件の要請があり、241 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 3 年度末現在）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りするのは、国指定文化財の史跡として指定されている松ヶ岡開墾場（山形県鶴岡市）にある「カスミ桜」です。

松ヶ岡開墾場は、明治維新の大改革に際し、旧庄内藩士 3,000 人が刀を鋤にかえて開拓した土地です。開墾が始まって以来 150 年となる現在も、月山山麓の 220 ha に及ぶ広大な農作地となっています。また、松ヶ岡開墾場には創建当初のまま本陣や蚕室等が残っており、平成元年 8 月 11 日に国指定文化財の史跡に指定されました。

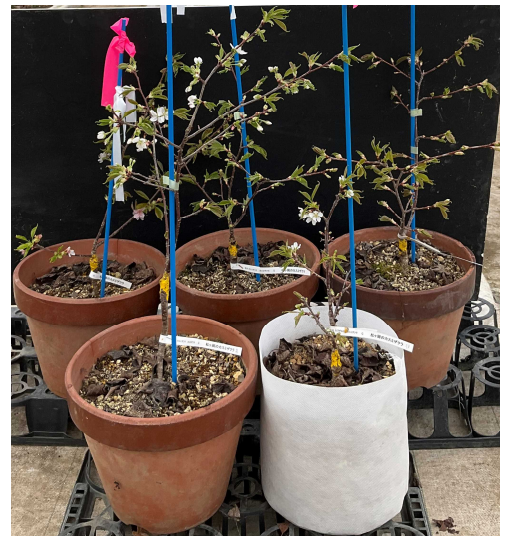
松ヶ岡開墾場にある「カスミ桜」は、樹高が 6m、幹周りが 4m の大木で、羽黒町（現鶴岡市）天然記念物に平成 4 年に指定されました。しかし、幹は腐り樹勢が弱くなってきたため、平成 23 年 3 月に木を管理する株式会社松ヶ岡農場から東北育種場に対し、林木遺伝子銀行 110 番が申請され、後継樹を育成することになりました。

後継樹の増殖の試みは大変難航し、今回里帰りする苗木は東北育種場職員が「カスミ桜」から平成 31 年 1 月に 3 回目の穂木の採取を行い、つぎ木を成功させたものです。この苗木は、つぎ木により増殖させたクローン苗木であることから、親木と同じ遺伝子を持っており、二代目の「カスミ桜」として成長することが期待されます。

図、表、写真等



「カスミ桜」の原木の写真
(平成 31 年の穂木採取時に撮影)



「カスミ桜」の枝をつぎ木して育てた後継樹
(令和 4 年 4 月撮影)